



# 国語

- <出題領域> 問一 説明文の総合問題 問二 表現に関する問題  
問三 漢字の修正 問四 古文の総合問題  
問五 小説文の総合問題

## <解説>

- 問一 (3) アは「脳の学習機能だけに焦点を当て」の部分で誤り、イは「脳とAIの違いを対比的に書くことで」の部分で誤り、ウは「問題の解決を提示している」の部分で誤りです。
- (4) 空欄Bは、本文1行目から抜き出します。空欄Cは本文9行目から抜き出します。
- (5) i 林さんが書いた感想文の冒頭に「10段落の内容が印象に残りました」とあるので、10段落から該当箇所を探します。「知人者智、自知者明」という言葉について説明した部分に、「真に聡明であるということは自分のことを知っていることにあります(本文38~39行目)」とあります。また「解像度を上げる」ことについて、「自分が培ってきた脳内モデルや『知恵ブクロ記憶』を把握し、自分の脳や身体が持っている癖を知ることが重要です(本文40~41行目)」と述べています。これらから空欄Dには、「自分をよく知っている」「自分のことを理解している」「自分をしっかり把握する」といった言葉が入ります。空欄が2箇所ある点に気をつけます。
- 問二 (2) 松山さんの発言「『フードバンク』や『フードドライブ』の広がりは、食品ロスを減らす取り組みの一つになっているよね」から抜き出します。
- (3) 空欄Bの前に「資料IIでもその認知度は……『フードドライブ』のみに関しては」とあるので、資料IIの「フードバンク活動及びフードドライブ活動について」を見ます。「フードドライブ活動を知っていた」割合である「18.6%」に着目します。空欄Bのあとには「%の人が知らない」とあるので、数字をそのまま用いずに、 $100 - 18.6 = 81.4$ として、「フードバンク活動を知らない割合」を求めます。空欄Bの直前には「約」とあり、81(%)と答えます。また、8割と考えた人は80(%)としてもよいでしょう。
- (6) Aは飲食店(直接、料理を提供する店)の取り組みですから、客層に応じたメニュー設定ができます。Bは小売店(スーパーなど食品を販売する店)の取り組みですから、少量パックの販売ができます。フードドライブは使わない食品を持ち寄る活動で、飲食店・小売店ともに、主となる取り組み(料理の提供や食品の販売)ではないため、Cのその他に組み入れることにあたります。
- 問四 現代語訳が「解説動画」の中にありますので、問四(2)の動画で確認しましょう。
- (2) iii 文章IIの3行目に「人に戯れ、ものに争ひ、一度は恨み、一度は喜ぶ」とあります。
- (3) ii 文章IIの6行目に「縁を離れて身を閑かにし、事にあづからずして心を安くせむ」とあります。
- (4) 文章Iでは「うらなく言ひ慰まむこそうれしかるべきに」、文章IIでは「ただ独りあるのみこそよけれ」の部分が係り結びになっています。
- 問五 (4) 音々の発言を確認すると「もしかして、励ましてたの? いまのやつ(本文6行目)」「もういいの? 野球やめたの、未練ない?(33行目)」「弱くない。けど、弱くても悪くない(45行目)」といずれも俳句の五・七・五のリズムで話していることがわかります。藤井さんの文章に「この文章の題名にもつながっている」とあり、文章の終わりにある書籍名「17シーズン 巡るふたりの五七五」も確認して考えます。
- (6) 鹿沼くんから野球をやめた理由を聞いた音々は、本文41~44行目で「音々は鹿沼くんの弱さを認めたくなかった。鹿沼くんと自分を重ね合わせてしまったからかもしれない。自分がコミュ障になったのは誰のせいなのか。『あの子』のせいだと思ったかったし、そう思うようにしていた。本当にそうなのかと思う自分もいる。自分が弱かったからじゃないかと。」と、自分の気持ちと向き合っています。